

裁縫技術のマスターカード

—かがり縫い・まつり縫い・スナップ付け—

加藤祥子 伊藤真実子* 川野倫枝*

1. はじめに

本学家庭科の学生に裁縫技術のアンケート調査を行ったところ、現行の学習指導要領の提示する目標に達しているとは言い難い結果となった。「正しいボタン付けができない」「衣服のほつれの補修ができない」「アイロンをかけることを知らない」などのできない、知らない技術が多くある。義務教育段階において学習する裁縫技術が身に付いていなければ、衣服の簡単な補修をすることはできない。

現行の中学校学習指導要領 技術・家庭 家庭分野に掲げる目標には「目的に応じた縫い方や製作方法などについて工夫し実践できるようにする」¹⁾とある。小学校段階での習得が見込まれる玉結びや玉どめ、なみ縫いだけでは目的に応じた縫い方はできない。衣服のほつれを補修するために、かがり縫いやまつり縫いを義務教育修了時の中学校第 3 学年で復習し、習得することが望ましい。裁縫技術を習得し、実際に使うことができる教材が必要である。

手縫いの裁縫技術を確実に習得することができる（文字、図、写真を用いて説明した）説明資料を開発する。本研究で本学家庭科 1 年生の裁縫技術における現状分析より身に付いていない裁縫技術を抜粋し、説明資料を作成していく。また、生活の役に立つ裁縫技術を把握するために保護者向けのアンケートを行った。この結果より、生活に役立つ裁縫技術の説明資料についても検討していく。

2. 開発にあたって

身に付いていないと思われる裁縫技術及び生活に役立つとされる裁縫技術の習得を目指すにあたり、説明資料は 1 つの裁縫技術が A4 用紙表面のみに収まるようにし、読むことに時間がかからないように配慮する。対象は中学生とし、生徒自身が手元で確認しながら作業を行うことができ、集中して読むことができるように情報量が多くなりすぎないことを目指した。1 つの裁縫技術について盛り込む情報量を最小限にして、写真と図を用いた説明書を開発する。裁縫技術を習得（マスター）することを目的とし、A4 用紙 1 枚のカードでできているため、以下、説明資料をマスターカードと呼ぶ。

3. 裁縫技術の選定

図 1 は現状分析で使用したアンケートであり、図 2 はその結果である。対象は本学家庭科 1 年生 46 名であった。小学校での既習範囲である玉結び、玉どめ、なみ縫いでは 9 割以上の者が「正

*愛知教育大学 教育学部

しく行えると思う」と回答した。一方、小学校で学ぶ かがり縫い、中学校で学ぶ まつり縫い、スナップ付けでは「正しく行えると思う」という回答が 4 割に満たない結果となった。衣服の補修で使用する機会が多いかがり縫い、まつり縫い、スナップ付けは習得しておきたい裁縫技術である。

卒業研究に関するアンケートのお願い

愛知教育大学 家庭選修 4年 加藤研究室
伊藤真実子, 川野倫枝

私たちは、衣生活学習における縫製技術習得のための教材の開発の研究に取り組んでいます。そこで、アンケート調査を行いたいと思いますので、ご意見・ご回答をよろしくお願いいたします。

番号 _____ 氏名 _____

I 以下の技術の中で、正しく行えると思うものすべてに○をつけてください。

玉結び	玉止め	しつけ	なみ縫い	本返し縫い	半返し縫い
まつり縫い	かがり縫い	ボタン付け	スナップ付け	角縫い	
角出し	糸こき	三つ折り	足つきボタン		

II 以下の道具の中で、正しく使えると思うものすべてに○をつけてください。

アイロン	まち針	チャコ鉛筆	裁ちばさみ	長針	短針
まち針	指ぬき	リッパー	ルレット	目打ち	

III 以下の被服用語の中で、説明ができると思うものすべてに○をつけてください。

一本取り、二本取り	ゆとり	角出し	出来上がり線
縫いしろ	中表	返し口	布の耳
わ	わる	布の縦と横	

IV 以下の被服用語の中で、知っているものがあればすべてに○をつけてください。

くけ縫い	伏せ縫い	二度縫い	袋縫い	水通し	地直し	糸調子	片側し
------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----

図 1 本学家庭科 1 年生を対象としたアンケート

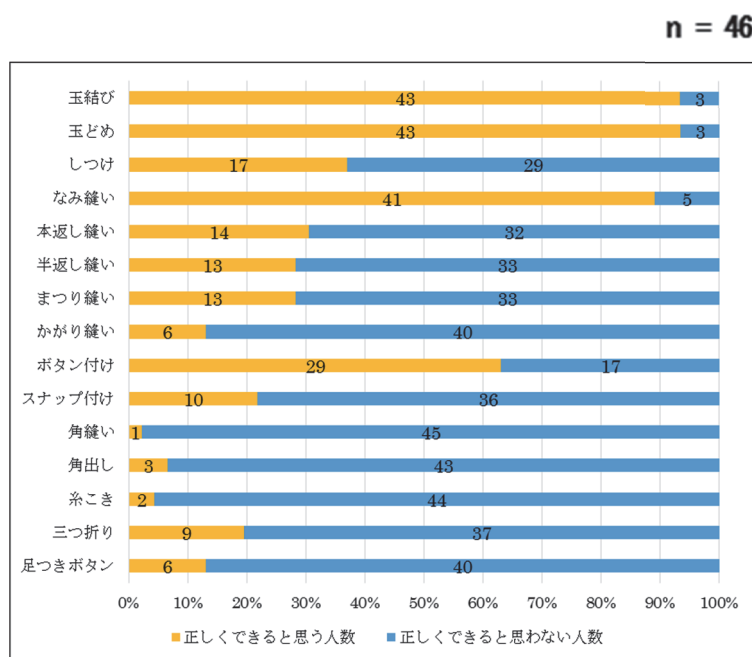


図 2 アンケートの結果

図 3 は義務教育を修了した本学家庭科 1 年生の、四つ穴スナップ付けの習得度を調査した結果である。本学家庭科 1 年生 46 名を対象とし、実際にスナップ付けを行うことで習得度を調査した。スナップ付けを正しく行うことができている被験者は 74% となり、図 2 の正しくできないと感じている回答は 78% に近い結果となった。

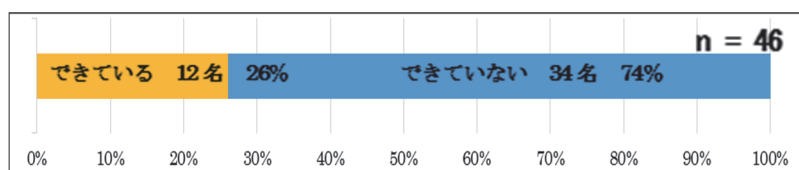


図 3 四つ穴スナップ付けの習得度

図 4 はスナップ付けを正しく行えていない例である。左から順に、スナップを付ける向きが間違っているもの、スナップの付け方を知らないもの、糸が表に出ているもの、糸が絡まっているものである。



図 4 スナップ付けを正しく行えていない例

図5～7は本学家庭科学生の保護者62名を対象としたアンケート結果である。図5は、役に立っている裁縫技術のアンケート結果である。役に立っている裁縫技術は玉結び、玉どめ、ボタン付けが9割、なみ縫い、まつり縫いが7割、スナップ付けとアイロンがけが6割を超える結果となった。これらの裁縫技術の回答数が多かったのは、衣服の補修や作品製作の際に使われるためだと考える。

図6は、子どもに身に付けさせたい裁縫技術のアンケート結果である。子どもに身に付けさせたい裁縫技術における回答は玉結び、ボタン付け、アイロンがけが9割、玉どめ、なみ縫い、スナップ付けが8割、本返し縫い、まつり縫いが7割という結果になった。子どもに身に付けさせたい裁縫技術としてほとんどの裁縫技術が挙げられた。

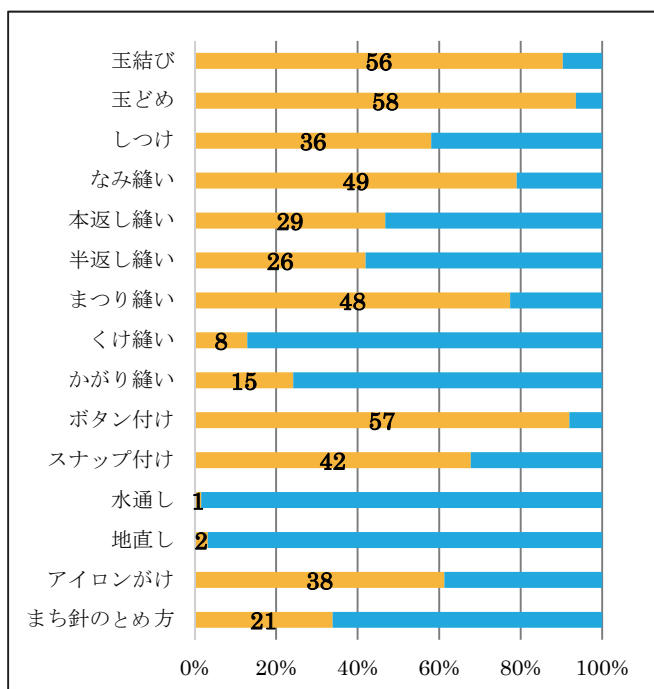


図5 役に立っている裁縫技術

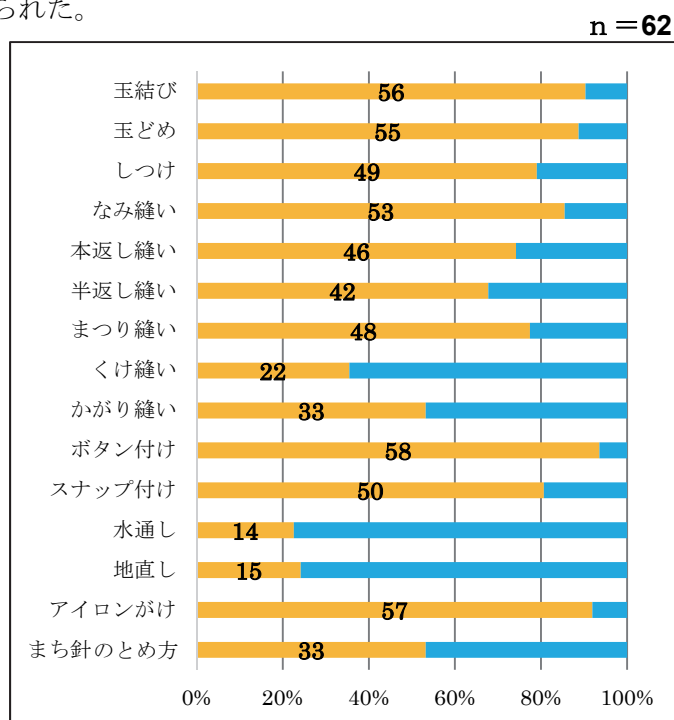


図6 子どもに身に付けさせたい裁縫技術

図7は、子どもに裁縫技術を身に付けさせたい理由のアンケート結果である。裁縫技術を身に付けさせたい理由として「自分でできるようになって欲しいから」という理由が1番多かった。自立を目指す家庭分野において、自分でできるようになって欲しいという保護者の願いから、裁縫技術の確実な習得を目指したい。

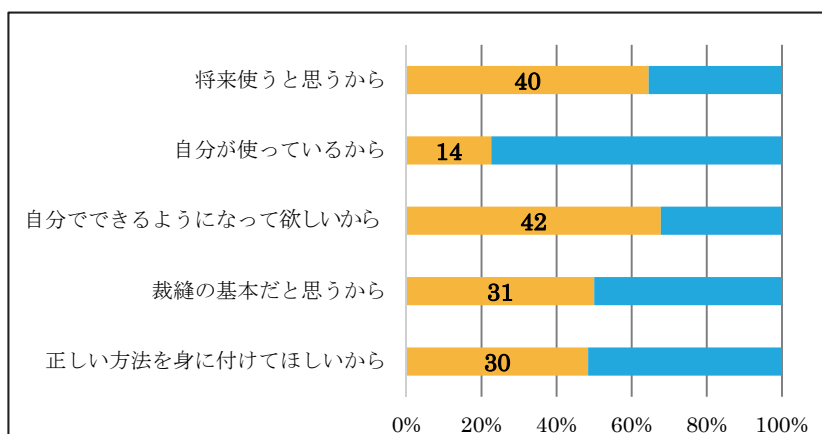


図7 子どもに裁縫技術を身に付けさせたい理由

本学家庭科学生対象のアンケート及び裁縫技術の習得度、保護者を対象としたアンケートを総合的に検討し、生活に役立つが習得が難しいと思われる「かがり縫い」「まつり縫い」「スナップ付け」の3種類の説明資料を開発し、裁縫技術の習得に繋げたい。

4. 実験方法

実験対象は本学家庭科1年生48名とした。被験者はカラー印刷されたマスターカードを見ながら個々で各技術を行う。被験者からの製作中の質問は受け付けず、製作後のアンケートに記述することとし、実験者は実験中の様子の観察、各技術の出来具合、製作後のアンケートについて調査を行った。実験中の様子の観察において、かがり縫いは「針を軸にして布を巻き付けることができるか」「複数回巻き付けてから針を抜いているか」を観察する。まつり縫い、スナップ付けは、失敗してしまう理由やできていない箇所を観察する。各技術の出来具合も確認し、製作後のアンケートを検討した。

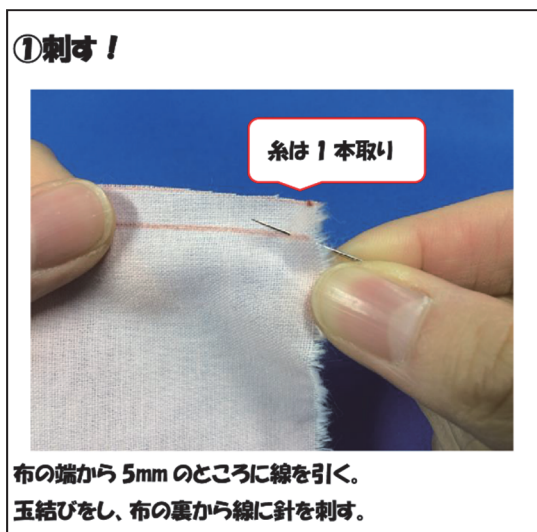
実験者はシーチング（縦10cm×横10cm）とマスターカードを用意し、被験者は手縫い針（もめんえりしめ）、手縫い糸（30番手）、糸切りばさみ、方眼定規、チャコペンを用いて実験に参加した。

5. 実験及び結果と考察

マスターカード第1版を用いて行った実験結果を検討し、第2版を作成するため反省点と改善点を考察する。かがり縫い、まつり縫い、スナップ付け、各裁縫技術の特に着目する箇所を抜粋して記載する。改良後のマスターカード第2版はそのまま授業で使用することができるように、図番号を省略して稿末に掲載する。

5.1 かがり縫いの反省点と改善点

かがり縫い工程①「刺す！」



反省点：布を5mmの線で折ってからかがり縫いをしている被験者がみられた。マスターカードの指示通りに行えていれば布は5mmの半分の2.5mmで折れる。「布の端から5mmのところを引く」と記述があるため線を引く、引いた線で折ってしまったことが原因と考えられる。

改善点：「布は折らずに始める」という注意書きの吹き出しを追加し、布を折らずに始めることが分かるようにした。吹き出しを1つから3つへ増やした。

図8 マスターカード第1版
かがり縫い工程①

かがり縫い工程②「引っ張る！」

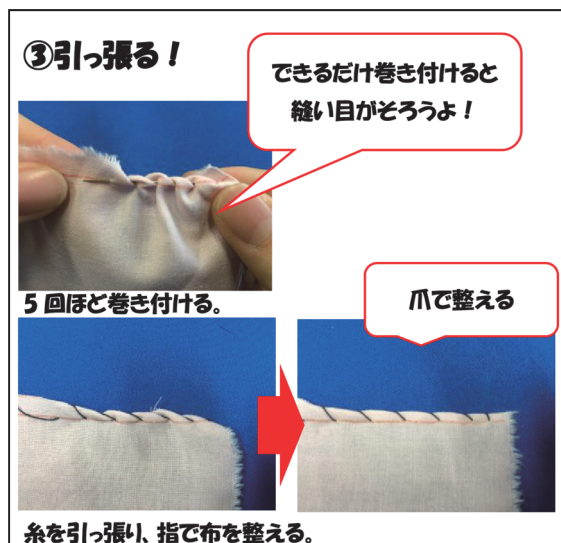


図9 マスターカード第1版
かがり縫い工程③

反省点：「布の整え方が分からない」「糸こきと同じなのか」という意見があった。第1版の写真では指の写真がないことで分かりにくかったと考えられる。また、かがり縫いをした後に布が縮んでいる被験者が6割以上いたことから糸を強く引きすぎてしまったことが原因と考えられる。

改善点：第2版では実際にかがり縫いを行っている写真に差し替え、表と裏の両方の写真を掲載して理解度の向上を図る。「糸はきつく引っ張りすぎない」という吹き出しを1つ加え、布が縮むことを防ぐ。どの向きで縫い進めているのか分かりやすくするため、写真には「表」「裏」を太字で書き加えた。

かがり縫い工程④「糸の処理」

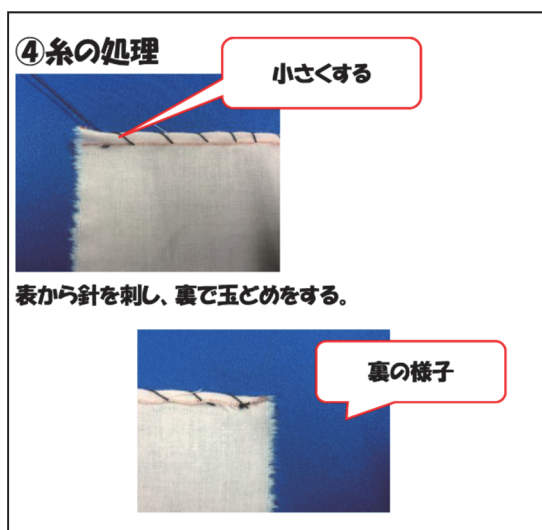


図10 マスターカード第1版
かがり縫い工程④

反省点：第1版では表と裏の写真を1枚ずつ掲載していたが、「どこをやっている様子なのか分からない」という意見があった。写真が拡大されていないために分かりにくかったと考えられる。『小さくする』は何のためか」という被験者からの疑問があったことから、理由とともに吹き出しに入れる必要があることが分かった。

改善点：アンケート結果を受けて針を刺している写真、拡大写真、布の裏で玉どめをしている写真を3枚追加した。より細かく手順を分けた写真を載せることで分かりにくさの解消を図る。また、「小さくする」から「表に大きく見えないようにしよう！」という表記に変更する。

5.2 まつり縫いの反省点と改善点

まつり縫い工程②「すくう！」



図 11 マスターカード第 1 版
まつり縫い工程②

反省点：実験の結果より、縦糸をすくいすぎてしまい、表に大きく見えてしまっている被験者がいた。「縦糸を 1~2 本すくう！」という表記はあるが、実際に縦糸が 1~2 本すくわれた様子が分かりにくかったことが原因と考えられた。

改善点：出来上がり面（表）の写真も記載することで布のすくいすぎを防ぐことができるようにする。第 2 版ではイラストと写真に対応させながら進めることができるように、イラストと写真を隣に配置した。写真を 1 枚から 3 枚に増やし、吹き出しを 2 つにした。拡大した図と詳しい説明を加え、分かりやすくする。

まつり縫い工程③「戻る！」

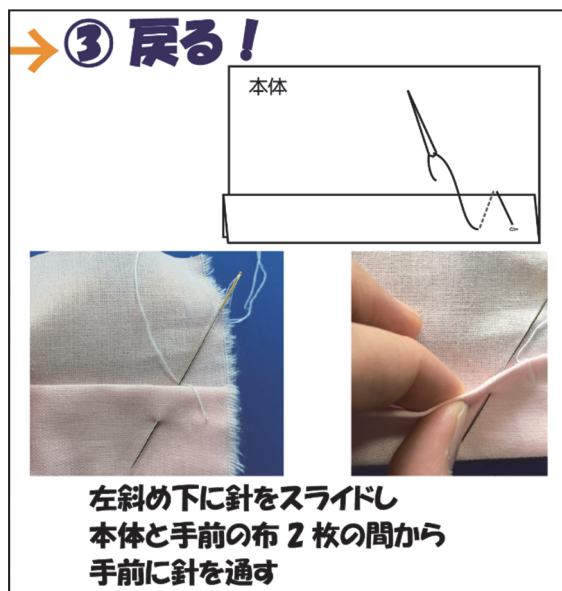


図 12 マスターカード第 1 版
まつり縫い工程③

反省点：実験の観察中に、布を体に対して垂直に持っている被験者が複数見られた。布を持って行っている写真がないため、被験者独自の方法で布を持ったと推測する。また、マスターカード第 1 版では説明文が長く、分かりにくいという意見があった。

改善点：針を持っている写真に差し替えることで持ち方が分かるようにする。マスターカード第 2 版では説明文を 2 行に分けて手順を理解しやすくした。同じ角度、長さで縫うことができるように三角形の図を追加した。マスターカード第 1 版では、まつり縫いの幅を深くし、見やすいように縫い目を強調して縫った写真を使用した。第 2 版では浅い幅と広い間隔で縫った正しいまつり縫いの写真を使用することとした。

まつり縫い工程⑤「玉どめをする！」

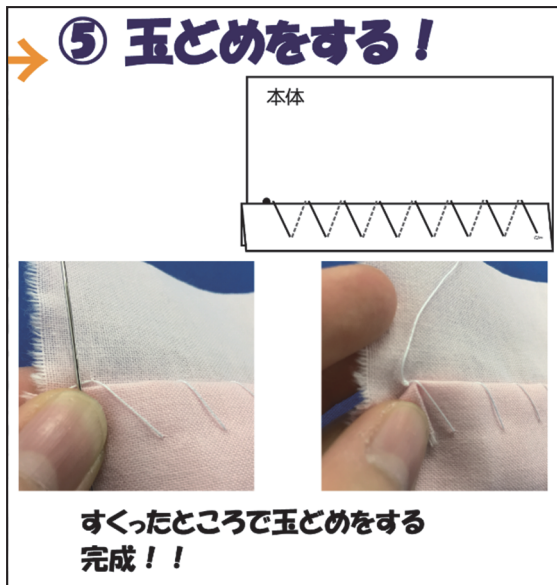


図 13 マスターカード第 1 版
まつり縫い工程⑤

反省点：半数以上の被験者が玉どめを隠すことができていなかった。玉どめをしてそのまま糸を上に向けて切ってしまったことが原因と考えられる。

改善点：「玉どめをした後に手前の布に針を通し、通したところで糸を切る」という説明に変更した。また「玉どめが隠れるように」という吹き出しを追加した。写真を 2 枚から 4 枚に増やし、分かりやすくした。工程【3】、工程【4】と同じように、文を 2 行にして内容で分け、理解しやすくした。

5.3 スナップ付けの反省点と改善点

スナップ付け工程①「固定！」

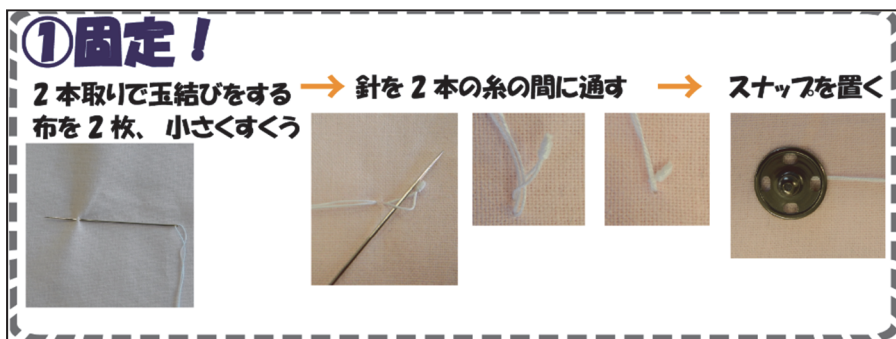


図 14 マスターカード第 1 版 スナップ付け工程①

反省点：途中で糸が絡まってしまう被験者が多くみられた。糸が絡まってしまうと直しが必要となるため、改善する必要がある。また、実験後の出来具合において中心がずれている被験者がいた。玉結びの上にスナップを置き、固定することができていないためと考えられる。

改善点：糸が絡まることを防ぐため、糸の長さを「肩幅程度の長さ」と指定した。吹き出しを 2 つ付け、注意書きを書き加えた。第 2 版ではスナップを置く位置をイラストで表し、スナップを付けたい位置からずれないようにした。

スナップ付け工程②「巻き付ける！」



図 15 マスターカード第 1 版 スナップ付け工程②

反省点:「スナップの枠が分からない」「糸の巻き付け方が分からない」という意見があった。実験中の観察では、多くの被験者が糸を上引っ張り、スナップの縁取りが上手くできていなかった。枠を固定する際は、右回り（時計回り）に付ける被験者と左回り（反時計回り）に付ける被験者に分かれた。迷っている被験者もみられた。また、針に糸を数回巻き付け、玉どめのようにしている被験者がいた。

改善点:「スナップの枠」から「スナップのフチ」と表記して分かりやすいようにした。「糸の巻き付け方が分からない」という意見と針に数回糸を巻き付けている様子から、工程の題を「引っかける！」に変更した。写真に矢印を書き加えることで糸を引っかける方向がわかるようにし、何度も糸を巻き付けることがないようにした。また糸は下に引っ張るように記述を変え、綺麗な縁取りができるようにした。またスナップの進行方向は左回り（反時計回り）に統一し、迷いのないようにした。

スナップ付け工程④「隠す！」



図 16 マスターカード第 1 版 スナップ付け工程④

反省点: 実験中の観察より、隠れていない玉どめを無理矢理スナップの下へ押し込んでいる被験者がみられた。玉どめを隠すためにスナップの反対側へ針を通すが、糸の引っ張りが甘かったためスナップの下に玉どめが隠れなかったと考える。

改善点:「玉どめが見えないように」という吹き出しを追加した。

6. 改良後のマスターカード

図番号を省略し、稿末に掲載する。

引用文献

- 1) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 家庭編. 教育図書株式会社. 2008

参考文献

文部科学省. 小学校学習指導要領解説 家庭編. 2008

新訂版 生活を科学する. 開隆堂. 2008, 4

新しい技術・家庭 家庭分野. 東京書籍. 2015, 2

技術・家庭 家庭分野. 開隆堂. 2015, 2

佐川澄子. 縫うー指導と実際ー. 光生館. 1978

マスターカード☆かがい縫い

①刺す! 出来たらチェック!

布の端から5mmのところを引く。

糸は1本取り

布の端は折らずに始めるよ!

玉結びをし、布の裏から線に針を刺す。

針は短すぎないように持つ!



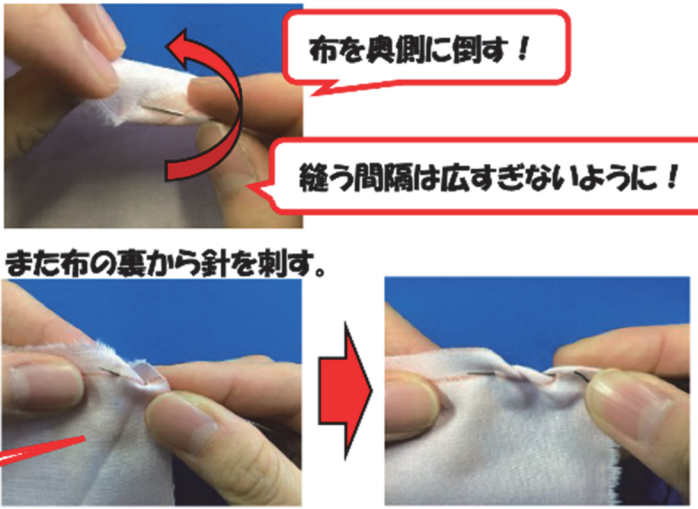
②巻き付ける! 出来たらチェック!

布を奥側に倒す!

縫う間隔は広すぎないように!

また布の裏から針を刺す。

針に布を巻き付けるように布に刺していく。



③引っ張る! 出来たらチェック!

縫い目をそろえるためには、1回に巻き付ける回数を多くする!

5回ほど巻き付ける。

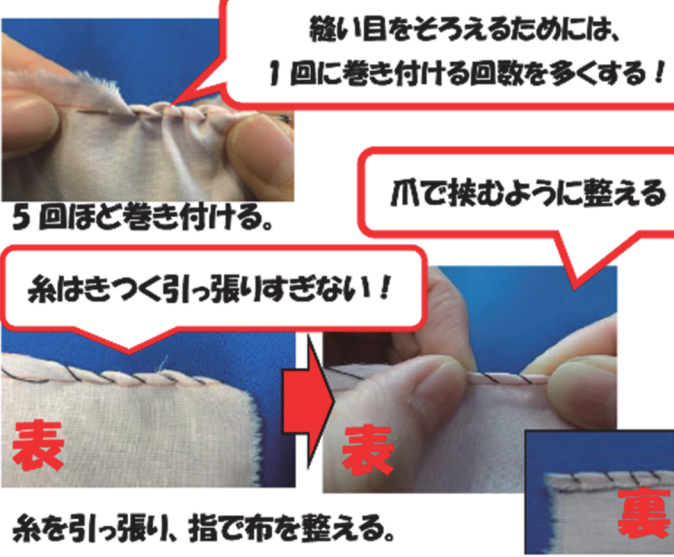
爪で挟むように整える

糸はきつく引っ張りすぎない!

糸を引っ張り、指で布を整える。

表

裏

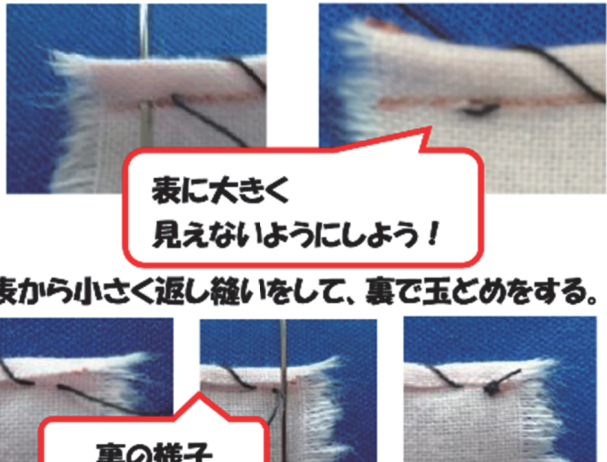


④玉どめは裏に! 出来たらチェック!

表に大きく見えないようにしましょう!

表から小さく返し縫いをして、裏で玉どめをする。

裏の様子



これでマスター!

比べてみよう>>

○ 布がしっかりと折れている

△ 布が縮んでいる

表

裏

表

裏

△ 布が折れていない

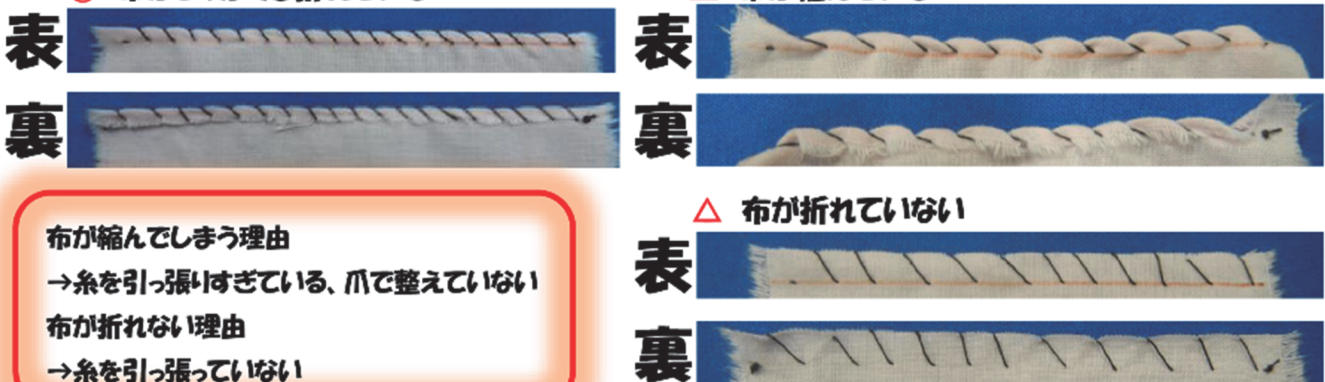
表

裏

布が縮んでしまう理由
→糸を引っ張りすぎている、爪で整えていない

布が折れない理由
→糸を引っ張っていない

○か△で自己評価をしよう!



マスターカード☆まつり縫い

①針を通す! 出来たらチェック!

糸は一本取り!
縫う分の糸を取る

玉結びは
布の内部から出るようにする

②すくう! 出来たらチェック!

縦糸を
1本~2本すくう

反対側は
こうなる

左斜め上に針を刺し
本体の縦の糸をすくう

③戻る! 出来たらチェック!

左斜め下に針をスライドする

△になるように

本体と、手前の布 2 枚の間から
手前に針を通す

④繰り返す! 出来たらチェック!

②~③を繰り返す

同じ△をたくさん作る

端までいったら
すくうところで止める

⑤玉どめをする! 出来たらチェック!

すくったところで玉どめをする

玉どめが隠れるように

手前の布に通し、通したところで糸を切る
完成!!

○か△で自己評価をしよう!

これでマスター!

- 布がまっすぐでない
- △ 反対側に見える
- △ 玉どめが見えている
- △ 長さ・角度が同じでない

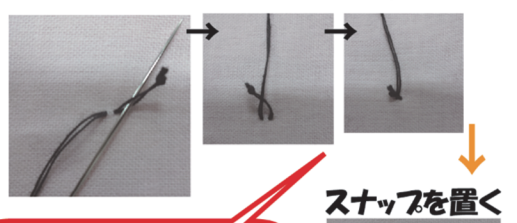
反対側

マスターカード☆スナップ付け

①固定! 出来たらチェック!

糸は2本取りにする
肩幅程度の長さで玉結びをする
布を2枚、小さくすくう

→ 針を2本の糸の間に通し、引っ張る



スナップを置く

からまらないように!

真ん中に玉結びを入れるように固定する

③移動する! 出来たらチェック!

隣の穴に針を通す

→ ②~③を繰り返す



布を1枚だけすくって穴に通す

裏

表

②引っかける! 出来たらチェック!

穴に糸を通す

→ スナップの7千から布を2枚すくって穴に針を出す



糸を針に引っ掛け、下に引っ張る


3~4回繰り返す

反時計回りに

→ 3

④隠す! 出来たらチェック!

1枚の布だけをすくい、反対側に針を出す → 玉どめをする



裏には見えない!

表

裏

1枚の布だけをすくい、再び反対側に針を出す

→ スナップのぎざぎざの位置で糸を切る

玉どめが見えないように

これでマスター!

○ 表

△ 布を1枚しかすくってない

△ ④で布を2枚ともすくっていない

△ 1回、2回しか繰り返していない

△ 玉どめが隠れてない

○か△で自己評価をしよう!

△ 引っかけてない

